北陸の天理教

天理大学附属天理図書館
天理教文献室
早田　一郎　*Ichiro Soda*

福井、石川、富山の天理教について考えよう。

上記北陸３県への天理教伝道のほとんどは京都からなされたと言ってよい。京都の河原町系および郡山系の伝道が福井県若狭地方に伝わり、そこから福井県東部、石川、富山へ広まった。現在の教会系統で言えば、越乃國、鹿島、北陸の各大教会と河原町系小濱分教会などである。旧国名では若狭から越前へ、さらに加賀、能登、越中へと伸びていったことになる。

おぢばから京都へは明治10年代に伝わっていた。京都から滋賀県、福井県に伝わるのは天理教伝道線が延伸する方向性の基本である。すなわち、京都を基準に考えるとおぢばとは反対方向に伸びていくのが天理教伝道の基本である。福井、石川、富山の各県はまさにこの方向にある。

京都の斯道会（後の河原町分教会）の信仰が下鴨を経て京都北郊の大原村に伝わり、滋賀県湖西地方、さらに福井県若狭に伝わった。明治19年から20年代初めのことである。

明治19年、斯道会によって勤められた京都下鴨の雨乞い勤めの効験を目の当たりにした人々は村をあげて信仰を始め、下鴨からさらに北方山間の大原にも伝わった。大原の信仰はさらに滋賀県境にある久多村を経て福井県小浜に伸び、明治25年、小濱分教会が設立された。

大原の信仰は途中峠を越え滋賀県湖西地方にも入り、福井県敦賀郡愛発（あらち）村に伝わり後の越乃國大教会の道が始まる。

明治20年、愛発村出身の山口喜之助は湖西地方堅田の講で入信した。おぢばや斯道会にも参拝し、教理に感動した山口は故郷愛発村に伝え、明治21年には講を結ぶに至る。

愛発村の信仰は漢方医で人望家杉本又兵衛の入信により付近一帯に講ができ、後の越乃國に繋がる伝道者の多くがこの頃入信する。少し後には元小浜藩士で敦賀町奉行を勤めた高橋直秀も、信仰者が熱心に稽古するおてふりを見て興味をおぼえ、おぢばや河原町大教会（当時分教会）に参拝し、深谷源次郎に会って信仰の真髄にふれた。

愛発村付近の天理教は明治24年宇野善助を会長に、高橋直秀を副長に越乃國支教会（現大教会）として設立された。

越乃國支教会の信仰は福井県内に止まらず、石川県に伸びる。まず金沢市に越乃國支教会信徒事務取扱所を作った。これは後の尾山分教会である。

さらに越乃國の布教師松永鶴吉は明治24年金沢に出、さらに能登半島の付け根にあたる宝達村を布教地とし、翌年能登出張所を設置した。

改進党員で土地の壮士を任じていた町駒小太郎（後、清水）は松永の説く教えをいかがわしい宗教だろうと、問い詰めようとした。ところが教えは理解し得なかったが松永の人柄に魅力を覚え、自分の家に住まわせることとした。

ある時、町駒が政敵との対決に刀を持って出かけようとしたのを、松永は「私がここに泊めて頂いているのはこのような時にお止めするためだったのです。どうしても行くなら私の首を切ってからにして下さい」と必死に諌めた。町駒はこの松永の真実に打たれ、弟子になり信仰を始めた。

町駒は土地の顔役で、人づきあいも多く、有名人である。町駒の入信とともに村の人たちは続々入信したという。その分町駒は人々の面倒を見た。明治25年10月には講を結び、11月に前記の出張所を設立した。後の鹿島大教会である。

この後、鹿島の信仰は富山県や新潟県長岡へと伝道線を伸ばし、北陸全域に根を下ろした。

現在、越乃國大教会の関係教会は福井県に23カ所、石川県に10カ所、新潟県に8カ所、長野県に6カ所ある。また、鹿島大教会は石川県42カ所、富山県25カ所、新潟県40カ所であり、河原町大教会系統として始まった２大教会の合計は福井県25、石川県52、富山県28、新潟県48である。越乃國、鹿島の教会が若狭、越前、加賀、能登、越中、越後へと日本海に沿っておぢばより遠方へ伸びて行ったことが理解される。

京都から郡山系統の伝道が北陸へ伸びた話に移ろう。

京都府愛宕（おたぎ）郡白川村の沢田重左衛門は明治19年に入信した。沢田は天竜講（後の郡山大教会）講元平野楢蔵の伯父（一説に従兄弟）にあたり、精米と酒屋を営んでいた。金策のため郡山の平野を訪ねたところ、平野は天理教に入信しており、道の有り難さを聞かされた。渡世人だった楢蔵の変貌に驚きもし、天理教の偉大さにも気づき、即入信したという。

沢田は信仰が進むにつれ遠方へ布教することを願うようになった。そんな時、福井県若狭から白川村に来ていた石工が沢田から教理を聞き「私の郷里には病人がたくさんいるから布教にきてはどうか」と勧めてくれた。当時、白川村の人たちから白眼視されていた沢田は、これはまさに天の声とその石工と若狭へ向け旅立つ。明治21年のことだった。

石工の郷里福井県大飯郡音海村に落ち着いた沢田は近くの村々をおたすけに歩いた。魚住紋平、岩﨑要三郎、岩﨑源右エ門、小原常太郎ら、後の北陸支教会を支える人たちが入信した。

明治23年頃には布教拠点としていた岩﨑源右エ門の家に入りきれないほどの参拝者になったという。この様子を見た沢田は安心し、あとを源右エ門らに託し自らは舞鶴へ向かい山陰大教会の基礎を築くことになる。

岩﨑や小原らの努力で明治23年には教会設置を願い出、岩﨑源右エ門を会長に北陸支教会（現大教会）が設置された。

教会設置後しばらくは福井県若狭地方が信者の主な所在地であったが、やがて布教師たちが石川県、富山県、さらに新潟県にまで伝道線を伸ばすことになる。その結果福井県32カ所、石川県28カ所、富山県13カ所の教会ができている。

ところで福井から富山までの北陸各県は仏教王国である。人口比寺院数は何れの県も京都府より多い。一般に仏教勢力の強いところ（特に浄土真宗）は天理教が入りにくいと言われる。たしかに福井、石川、富山３県とも天理教教会数は少ない。人口比教会数もやはり少ない。しかし、福井県に始まった河原町系の越乃國大教会、鹿島大教会、また郡山系の北陸大教会の各伝道は仏教の盛んな土地に入り込み健闘したと言える。逆の見方をすると北陸３県に入り込んだ天理教は河原町、北陸の２系統がほとんどであり、他系統は入れなかった。したがって伝道経路は比較的単純である。

（教会数は全て立教173年版『天理教教会所在地録』による）